

大学本部における災害対策図上訓練の実施と今後の課題

徳島大学環境防災研究センター 学生会員 ○湯浅恭史

徳島大学環境防災研究センター 正会員 中野 晋

徳島大学総務部 非会員 粕淵義郎

1. はじめに

2011年3月に東日本大震災が発生し、被災地域の大学では人的にも物的にも多くの被害があり、時期的にも入試の実施などに大きな混乱が生じた。また、施設の復旧と併せて地域貢献活動も行うなどして、入学式や前期授業の開始を1ヶ月程度遅らせ、授業時間、休業期間の短縮などスケジュール調整の対応が取られた。

徳島大学では、今後の南海トラフ巨大地震発生が懸念される中、地域の中核研究・教育機関として南海地震対策を喫緊の課題として捉え、東南海・南海地震対策委員会を設置し、全学体制で対応を検討してきた。

本学本部がある新蔵地区では、2014年10月に「徳島大学新蔵地区災害対策マニュアル」を改訂するなど災害対策本部のメンバーや班、それぞれの役割などを定め、明確にしてきたが、それらに対する訓練が実施できておらず、訓練の実施が課題となっていた。

そこで、本研究では、本学本部を対象とした災害対策図上訓練の取り組みを通して、大学での図上訓練の取り組み方法を検討する。また、今後の課題や改善方法についても併せて検討を行う。

2. 大学本部への災害対策図上訓練の取り組み

本学本部で実施した災害対策図上訓練の流れを紹介することで、大学本部における図上訓練の取り組み方法を示す。

(1) 目的の設定

今回の図上訓練では、前日に災害対策本部の設置訓練を行った上で、南海トラフ巨大地震発生時の初動対応（発生後1日程度）について、災害対策本部メンバーに各自の役割を認識してもらい、課題を検討してもらうことを目的に設定した。

(2) シナリオの検討・作成

災害対策本部メンバーがどのような対応を求められるのか、徳島県が公表している南海トラフ巨大地震被害想定から、大学が直面する可能性のある被害を検討し、それらを基にシナリオを作成した。東日本大震災で実際に被害のあった大学の対応等を参考に、「怪我人対応」「火災」「報道情報」「施設状況報告」「学生・教職員安否報告」などのシナリオと、もし起こったら困るであろうもの、課題となりうるものとして「不明者情報」「重傷者対応」「職員の帰宅希望」なども併せてシナリオに組み入れることとした。

(3) 図上訓練構成の検討

作成したシナリオは時系列に整理し、大学本部の立地環境を踏まえて、地震発生から津波到達までの約1時間を2つに分け、そこから翌日までを1つとし、3部構成にした上でそれぞれの最後に設問を設定した。シナリオでは、時系列に各災害対策本部メンバーが実際に報告を行い、設問において優先順位の高い課題について対応を検討する方式とした。

これは、まずは災害対策本部メンバーに役割を認識してもらうことを重視し、その上で課題について検討し

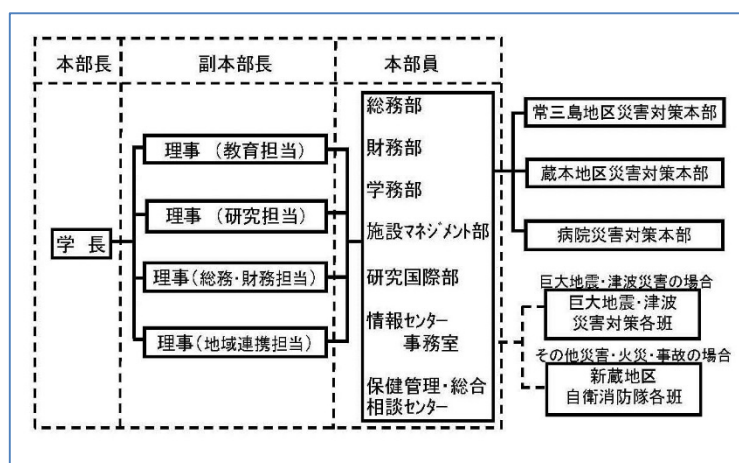


図-1 新蔵地区災害対策本部の構成

てもらうことを意図したものである。

(4) 事前説明会・災害対策本部設置訓練の実施
効果的な図上訓練にするために、訓練のスケジュールや内容について、図上訓練前日に職員を対象に事前説明会を実施した。災害対策本部

メンバーは各自の役割について、シナリオに基づき本部に報告を行うが、他のメンバーがどのような報告をするのかを事前に知っておくことで、全体としての流れの中での自分の役割を認識することができる。

また、併せて災害対策本部設置訓練を行い、レイアウトや設備についても確認しながら設置を行った。本来であれば、図上訓練と併せて災害対策本部設置訓練を行うべきであろうが、災害対策本部メンバーの役割認識と課題の検討に重点を置くため、前日に実施した。

(5) 図上訓練の実施

災害対策本部メンバーが会議中というシチュエーションで、緊急地震速報が発表され、地震動のあいだ各自が安全姿勢をとることから図上訓練を開始した。揺れが収束し、災害対策本部参集がなされ、シナリオに基づく報告があり、本部内の怪我人の状況や外部からの情報が少しずつ入ってくる段階で設問となった。最初の設問では、怪我人の優先的な処置やエレベーターの閉じ込めへの対応が問われ、それぞれで対応策を検討、意見交換がなされた。

次に津波到達が迫る中、少しずつ怪我人、安否確認などの詳細な情報が報告される中、近隣住民や帰宅希望者などの要望が入る中で2番目の設問となった。設問では、近隣住民の救援要請や帰宅希望者の要望等にどのように対応していくのかを検討し、意見交換を行った。

津波到達後、ライフラインの情報や周辺の様子などの情報が入る中、3番目の設問となった。設問では、日没前にしておくべきことや帰宅可否の判断についての対応を検討し、意見交換を行った。

(6) 振りかえりの実施

図上訓練後にアンケートを行い、訓練の振りかえりを実施した。参加者の意見として、「年1回は図上訓練を行うべき」「今回のような考える訓練は有効である」という評価がある一方、「時間と内容が伴っていない」「1回の訓練に時間をかけすぎている」という意見もあった。また、「担当班毎の訓練が必要である」「班でより具体的な訓練の実施を希望する」など役割毎の訓練の実施を求める意見もあった。

3. 今後の課題

今後は、災害対応力を継続して向上させていくため、このような訓練を継続的に行うことと、訓練で抽出された課題を適切に改善し、次の訓練までに改善するというサイクルを回していくことが大きな課題となる。また、大学本部では人事異動が定期的にあることから、訓練スケジュールやマニュアル作成、短時間での各班業務の実動訓練など、人事異動等に対応していく仕組みづくりも課題となる。

4. まとめ

このように、マニュアルを整備するだけでなく、そのマニュアルに基づく図上訓練を実施することにより、南海トラフ巨大地震への対応を実際に確認し、課題を抽出した。その上で、課題への対策を検討し、改善に向けた取り組みを行っている。引き続き、大学の教職員が一体となって、継続的な改善を目指していきたいと考えている。

【携帯電話からの情報】  - 携帯電話のエリアメールでは、「和歌山県沖で地震発生。強い揺れに備えてください（気象庁）」となっています。 - 南海トラフ地震でしょうか？ 15:04	【救護班 班員からの報告】 - 各部门ごとにけが人の有無を確認しています。 - かなり大きな揺れでしたので、けが人が何名か出ているようです。 15:06
【消火班 班長からの報告】 - しんくら会館で火事があったとの連絡があり、自衛消防隊消火班が消火に向かいました。 - 火事の規模等はわかりませんが、焦げくさい臭いがしています。 - 消防に電話していますが、つながりません。 15:12	【通報連絡班 班員からの報告】 - 常三島・蔵本キャンパスに電話していますが、つながりません。 - 衛星携帯電話、無線もつながらない状態が続いています。 15:16

図-2 作成した初動対応シナリオ